

7/25 (火)  
12:50~15:00  
@蓮華亭

# 2023年度第1回ワークショップを開催しました！

昨年度に引き続き、千葉公園通り道路改修に向けたワークショップを開催しました。

昨年度は計4回のワークショップ（以下WS）を開催し参加者の皆さまと意見交換をしながら、千葉公園通り道路改修に向けた計画を進めてきました。参加者の皆さまの意見を踏まえ、今年度6月には昨年度のWS成果をまとめた「千葉公園通りの未来を考えるワークショップ成果ブック-2022-」を公開しました。

「WS成果ブック-2022-」は千葉市HPで公開中！



## 今年度の予定

今年度は道路改修のための基本設計を進めます！  
そのために沿道にお住まいの方や事業者の方などにご参加いただき意見交換を実施します。

## 会場の様子



## 第1回WSでは…

第1部：「千葉公園通りの未来を考えるワークショップ成果ブック-2022-」の紹介

- ・千葉公園通りは車優先ではなく歩行者が歩きやすく歩車が共存する「シェア」の考え方を説明
- ・道路改修の4つのポイントについて説明



第2部：道路横断構成の組み合わせワークショップ

- ・道路横断構成のパターン別※に2班に分かれて議論  
※滞留部を1m/0.75m/0.5mの3つの幅員から各班1つの幅員を選択し滞留部が両側のパターン/片側のパターンそれぞれを議論しました
- ・ベンチや植栽プランター等のミニチュアを用いて、具体的な空間をイメージしながら意見交換



今回！  
7/25

### 【今年度のWSの予定】

- 第1回WS：道路横断構成に関する議論
- 第2回WS：滞留部に関する議論（予定）
- 第3回WS：平面案の共有（予定）

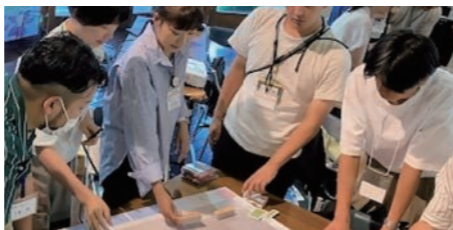
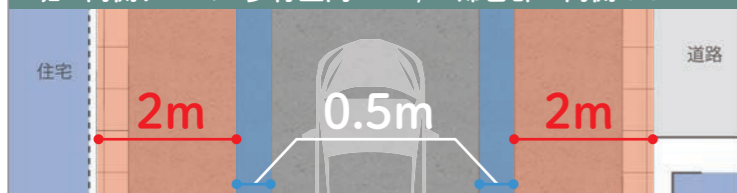
## 第2部：道路横断構成の組み合わせワークショップでの意見

1班：全幅員が約8mの内、歩行空間が2m、滞留部が車道の両側あるいは片側配置

●：歩行空間 ●：滞留部（ベンチや植栽プランター等が設置） ■：道路横断構成について ■：滞留部について ■：その他意見

### 共通意見

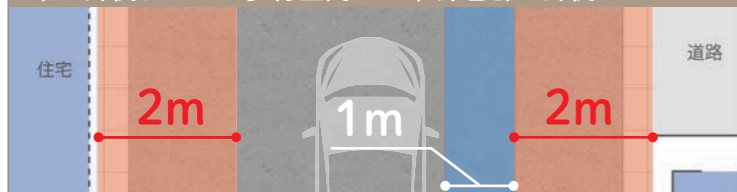
1班 - 両側チーム：歩行空間：2m / 滞留部：両側 0.5m



- ・0.5mの滞留部ではベンチや植栽の設置が厳しいので、幅員を広げた方が良い
- ・両側に滞留部を作ることによってそれぞれの幅員が狭くなるのならば、片側に集約した方が良い
- ・駐車場の入り口付近は何も設置せず、住宅が続く箇所においては植栽プランター等は家と家の間に設置するのが適している
- ・植栽や花壇は子供の飛び出しや運転者からの視認性の観点から高さが低いものが適しているが、一方で箇所によっては住宅に対する目隠しとなる可能性もあり、良いかもしれない

【道路横断構成に関する共通意見】  
・歩行空間を道路の両側同じ幅員にするのではなく箇所に依じて幅員変化をすればそれに伴って滞留部も適宜広がる

1班 - 片側チーム：歩行空間：2m / 滞留部：片側 1m

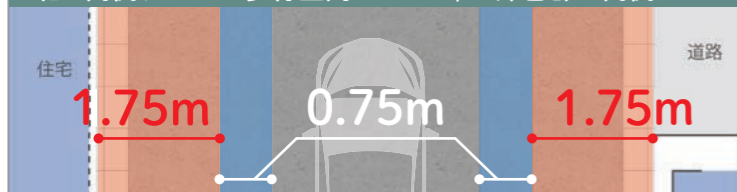


- ・片側だけの滞留部だと目の前の建物用途によって配置されるものが限られるため、両側に滞留部を設け、通り全体を見て配置した方が良い
- ・滞留部は両側に1mずつあるとベンチや植栽プランターの設置が十分に可能
- ・イベント時、飲食店前はパラソルやタープの設置をしたいため線的よりも面的な広さが欲しい
- ・視認できず衝突してしまう恐れがあるため庭園灯のような背の低い照明は、植栽帯を抱き合わせて設置した方が良い。地植えの植栽帯は低すぎると車両の乗り上げの懸念がある

【滞留部に関する共通意見】  
・飲食店前には日常的な荷捌きやイベント等があるので、固定的な施設は設置しない方が良い。可動式のベンチや植栽によるフレキシブルに使うエリアの両方があると良い  
・車両の視距確保や乗り入れ防止の観点から、プランターの高さを検討する必要がある  
・ベンチやプランターは、ひと固まりにして拠点的に配置し、大きい樹木等はまとめて配置した方が良い

2班：全幅員が約8mの内、歩行空間が1.75m、滞留部が車道の両側あるいは片側配置

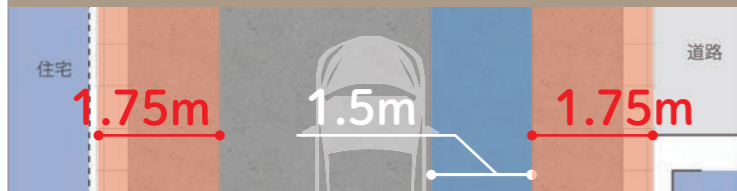
2班 - 両側チーム：歩行空間：1.75m / 滞留部：両側 0.75m



- ・可動式の樹木プランターを設置することで季節に合わせた木陰が創出できる。また、プランターの設置方法や高さによっては車両への圧迫感を生み出し、速度抑制につながる
- ・地域のイベントに関する情報看板があると良い / 通りのシンボルとして背の高い樹木があると良い
- ・イベント開催時に、ホコ天で使用しているような可動式のファニチャーを活用することで、仮設的な滞留空間を設置する
- ・歩行者目線による歩きやすさを考えると同時に、自動車目線の運転しやすさも考える必要がある

【ベンチに対する共通意見】  
・住宅前に設置の場合、家を出てすぐ利用者と鉢合わせたりするのは避けたいし、家の前でたむろされるのは嫌だ  
・一方で活気や賑わいが可視化されるため、防犯性は高くなる可能性がある  
・家の前で友人やご近所さんと一緒に井戸端のな使い方が可能になる

2班 - 両側チーム：歩行空間：1.75m / 滞留部：両側 1.5m



- ・ベンチと車道の間には、背もたれなど緩衝帯となるものがある方が良い
- ・大きいベンチ1基よりも、複数の可動式の小さいベンチを設置する方が組み合わせを変えることができる。また直線型よりもL字型のベンチの方が向かい合わせの姿勢になるので会話が弾む
- ・ベンチや植栽プランターは小さいサイズの方が圧迫感を与えない
- ・荷捌き利用などもあるため、沿道の利用状況を丁寧に観察し、設計を行う必要がある。また、実際は電柱があるエリアなので、電柱があることを想定して計画したほうが良い

【その他意見】  
・植栽プランターの維持管理（水やり等）の仕組みを考える必要がある  
・住宅前のベンチや滞留部の設置に関しては賛否両論ある

様々な意見や共通するポイントが共有される有意義なWSになりました。ご参加いただきありがとうございました！第2回WSは9月頃開催予定です。ぜひご参加ください！！

これまでウォークアブル推進を目的に「千葉公園通りホコ天」等で様々なことにチャレンジしてきた千葉公園通りだからこそできる空間を目指します。ご参加いただいた皆さまの意見を踏まえ、引き続き道路改修基本設計を進めていきます。



昨年度までの取組は左記のQRコードから！

●お問合せ先  
千葉市役所 都市部 都市部 都心整備課  
TEL：043-245-5327 FAX：043-245-5627  
MAIL：toshinseibi.URU@city.chiba.lg.jp